

ホーム名：グループホームなかよし						
自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの楽しい会話やゆったりとした時間を過ごしていたくことを理念としグループホームとしての10カ条と共に玄関、リビングに掲示しています。	本ホームの基本的な福祉支援の精神は理念の中にしっかりと謳われている。ここを訪れる訪問者や家族にも分かりやすく額に収められ、玄関入り口に設置されている。また、リビングではボードにも掲げられ職員への啓発に繋がっている。	理念に向かっての具体的な支援方法としてはホームの10原則としてよく纏められている。これからも、この理念と10原則をホームの福祉方針とされ、恒久的な支援体制の継続を願うものである。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており以前は施設長が本部役員し現在は地区班長を務め地域活動のお手伝いなどを行っている。又ホームの夏祭りなどには地域の方々がお琴やフラダンスを披露しに来てくださり日常的にも散歩などで地域と交流しています。	本ホームの代表者は自治会に加入している。校区の災害避難訓練に参加したり、夏祭りの手伝いなどコミュニティへの参加に積極的な姿勢をもち、今日では完全に町内の一員として認められている。また、近所の人の演奏ボランティアの受け入れとして琴の演奏や、フラダンスを共に楽しんだりするなど、近隣との交流も盛んである。	地区の人口減少の傾向が続くのか、更なる地元への積極的な関わりの模索も必要と思われる。学童達のホームへの親善訪問を促すような事も含め、根気のある活動をされるよう期待していきたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験受け入れや地域の作品展などに入居者出展させていただいたり、地域の方から相談を受けるなど地域に向けて取り組んでいる。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの日常を見ていただきながら取り組みや実践について報告させていただき、又地域の高齢者の現状や取り組みをお聞きして、お互いの知識や経験をもとに一層の向上を目指している	2ヶ月毎の運営推進会議では、地域代表者や包括支援センター職員のみならず、入居者全員も参加されている。この事は、日頃の介護を見聞きする事が難しい方々に与えるインパクトも大きく、議題も、直接介護のあり方に直結したことから、ホームの行事や催しに至るまでの多岐にわたっている。	参加者に認知症関係の専門家を招くなどすれば別角度から見た意見も参考になるものと考えられる。一考をお薦めしたい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市主催の研修に積極的に参加しています。運営上の問題や疑問、課題が生じた場合は市担当者に相談しアドバイスをしています。	市からの新しい福祉情報に常に対応している。包括支援センターとの関係をリンクし、協力関係を維持している。市の研修には参加し、ホームでの諸問題点について解決を求めたりしている。	市との関係の重要性をよく認識されている。市からの諸情報は基本的なところでホーム運営に影響がある場合が多い。常に相談ができるような関係を維持して頂きたい。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については昨今の社会情勢の変化により外部からの侵入者を防ぐためにも玄関の施錠は必要との通達もあり、施錠を実施しています。現在その他の施設内での身体拘束は行っていません。しかし、利用者様の安全、清潔確保のためのやむを得ない場合はスタッフ、ご家族と協議のうえ最小限の拘束を行うことがあります。	本ホームの福祉支援の目的は、入居者と共に安全で楽しい清潔な生活を営んでもらうためのものであり、身体拘束は行わないようにしている。管理者や職員は可能な限りを尽くしてその支援に当たっている。入居者の身の安全確保が極めて難しくなった時は家族と相談を交え、その対処を図っている。(玄関の施錠は不審者の侵入を防止するのが目的である。入居者が希望すれば、常に外出は可能である)	加齢による判断力の低下により、自らの安全や清潔さを維持することが難しくなる場合がある。この問題について具体的な対応策を捻出され、マニュアル化されてはどうか。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が虐待防止の外部研修に参加し内部研修を行ったり、高齢者虐待防止テキストを常備するなど共通認識を持ち防止に努めている。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>自立支援事業、老人医療助成金制度、後見制度など必要のある利用者については第三者と協力して活用できるよう支援している。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約までに説明をし契約時には必ず重要事項を読み上げ不安や疑問があれば出来ることの支援を含め納得、理解を十分いただいています。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を玄関に設置し公共の苦窓口、連絡先を明記しています。月1回の介護相談員訪問を継続しており意見の反映に努めています。又ご家族が来訪時などに会話を大切にしています。</p>	<p>管理者が定期的にメールで家族の意見や要望を尋ねている。また家族の訪問時の会話から運営に関する話を抽出し、反映に努めている。意見箱は利用されていない。</p>	<p>少数運営の利点が活かされているが、家族の反応は小さい。メールでのやり取りの文について、家族に能動性を与えるような文案を考えられてみてはどうか？</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>日頃より代表者や管理者はコミュニケーションを取り易い環境にあり申し送りやミーティング以外でも意見を出し合い風通しの良い環境にありより良い運営を心掛けています。</p>	<p>非常勤を含めて職員全員で9名の家族的なホームである。管理者や職員が一体となって入居者の介護支援に当たっており、常に何がよくて何がよくないかは即話し合われすぐに共有化されている。常日頃からの話し合いが行われるため、職員の意見は反映されやすい状況にある。</p>	<p>小規模経営からくる管理者と職員の心理的距離の近さが功を奏している。身近で常に話し合うという利点を活用され続けて頂きたい。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>資格習得による手当や処遇改善手当、リーダー手当を支給。個人が得意とする分野など信頼して任せることにより、やりがいや意欲、責任を持ち仕事をしている。また希望休を取り入れ勤務表の作成。就業規則の明確化や法定外労災の加入など、労働条件に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホームでの日常を見ていただきながら取り組みや実践について報告させていただき、又地域の高齢者の現状や取り組みをお聞きして、お互いの知識や経験をもとに一層の向上を目指している</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域包括主催のグループホーム連絡会や市内グループホーム連絡会での研修や情報交換させていただいたり又同業者同士で食事に行くなどネットワークは良好です。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人、ご家族同伴で見学してもらい、ご希望により体験入居をしていただき又ご本人との会話などで要望や本音などを伺いグループホームで安心した生活が送れるように努めています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居者・ご家族の今日に至るまでの苦しみや現在もっている不安を理解するようにしている。家族と問題を共有する姿勢を理解してもらえるように、丁寧に説明するようにしています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>その時の必要なサービスをよく理解できる様に「聴くこと」を重点しケアを行っている。そして利用者や家族の思いを受け止め理解し、その時に最も最適な支援を提案するように心掛けています。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共に生活し食事と一緒に同じものを食べ日常生活の中で喜怒哀楽を感じ合い本人の人生経験の知恵などを学んだり、その時の状況に応じお互い支え合うケアを行っています。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族にも行事等や運営推進会議など毎月の便りで呼びかけ、一緒に過ごす機会を設けるようにし状況、状態の把握をさせていただいたり、共に本人を支えあえる関係に心かけている。職員も家族と気軽に話が出来ると信頼関係を大切に、一緒に支え合う関係を構築している</p>		
20	<p>8</p> <p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>個々の様子や状態、状況により自宅や周辺にスタッフやご家族の支援により連れて行ったりしていたが入居10年以上や又馴染みの場所を認識出来ない方もあります。入居長い方にとっては、馴染みの場所はここになっているようです。</p>	<p>本ホームでは可能な限り入居者の希望に沿うようにはしているが、特段の希望もない場合が多く、今日では近隣の公園やデイケアでの昼食などが楽しみとされている。遠方を希望される場合があれば家族の協力を求める時もある。</p>	<p>定期的に近所の方々の訪問を受けられるとその方が馴染みの人にもなっていく場合もある。近隣の方々にも声掛けをされ、馴染みの人を増やしていくよう期待したい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>少人数なので利用者とスタッフがひとつの話題で盛り上がり利用者同士も自然と共に過ごす時間も多く利用者同士の声かけもあったり、スタッフが日常関係も把握し状況に合わせて席替えをしたりコミュニケーションを大切に支援に努めています。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居され入院中の方の所にもお見舞いを継続している。また、退居後のご家族との年賀状のやり取りや訪問もあります。退居後に亡くなられた時にご家族から連絡をいただいたり会いに来て下さったりしています。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、行動から思いや希望などを把握し職員同士が共有し日々の暮らしに繋げるようにしています。	日頃の会話を大切にすることによって一人ひとりの思いを表情や言葉のアクセントによって把握できている。	支援を受ける本人の立場に立って考えてみると、意外な側面に気が付く場合もある。支援のスキルアップにつながる模索を継続させて頂きたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居前にキーパーソンとなる家族から生活歴や利用していた介護サービスや病院などから情報収集し記録し又ホームの暮らしの中で知り得た情報を職員同士で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を共に過ごす中でコミュニケーションを大切にしながら本人の有する力の把握に努め心身状況も日々の観察（顔色、食欲、医療関係の連携、バイタルチェック）などにより把握に努めて		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中でご本人・ご家族の思いを把握し、必要な関係者の意見を取り入れケア会議や日常的に意見を交換しより良い生活が送れるように作成している。	管理者はケア会議での話し合いや、日常的な会話から参考事項を集約して、自らの長年の経験を踏まえ、介護計画の策定にあたっている。見直しが必要な時にはいち早く決めるようにしている。	介護計画の見直しが必要になったケースに於いてはその件での因果関係の分析をし、記録されるようにすると、類似した問題が発生した際の解決に役立てやすいと考えられます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録チェック表や介護日誌に日々の様子やケアの実践を個別記録することにより申し送りを徹底し職員が情報を共有して介護計画の確認、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズや状況、ご本人やご家族の希望をふまえてデイケア、訪問医療、訪問看護や緊急時対応、看取りなど柔軟に対応している。意向が変化した時にも出来る限りサービスが行えるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のふれあい広場に参加したり地域の方のボランティアや交流など又ホーム長も自治会参加や役員などを通じホームとしても1人ひとりが地域で楽しむことができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医を受診することも可能だが、本人及び家族の意向を確認し決定している。定期的及び病状に応じて適切な受診が出来るように支援している。	協力医は山本内科であり、月1回の往診と週1回の訪問看護を受けている。家族からの希望があれば入所前からのかかりつけ医の受診もできるが、家族の協力が必要である。	協力医とかかりつけ医が互いに情報交換が必要な場合もある。いつでも利用可能なように、協力医とかかりつけ医の連絡マニュアルの策定を望みたい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。</p>	<p>あらゆる場面で気づいた事は共有しており、訪問看護師やディケアにも伝えて適切な処置を受けられるようにしている。また、ディケアや訪問看護師からの報告やアドバイスも受けている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は医療機関に情報提供を行い入院中も家族と連絡を取り合い又入院時の混乱や不穏がないように職員も面会に行き安心して治療できる支援や退院できる条件を双方で確認し合い取り組んでいます。</p>		
33 12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居当時から重度化や終末期のことはご家族の要望を聴き当施設の看取り介護の考えや看取り介護の視点、医療体制などの理解などについての同意や又重度化した時の対応もご家族と協議して、希望があれば主治医や訪問看護師の協力の元、看取りも出来る体制を取っています。</p>	<p>家族には入所時に重度化や終末期については十分に説明されている。また要望などについてもよく話し合われ、ホームとしては可能な限りの対応を約束されている。重度化の判断は山本内科がする。家族が希望すればホームにて万全の体制で看取りも受け入れている。</p>	<p>本ホームの特長の一つに看取りまで介護するという点がある。去年もお一人を看取られた。他の入居者には充分の配慮をされた上で、最期まで支援していくという体制に深い敬意を表するものである。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時は、随時主治医や看護師に電話で指示を仰ぎ初期対応している。ホーム提携医、看護師の自宅、携帯連絡先も掲示しており、往診も可能である。</p>		
35 13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の訓練の内、夜間を想定した訓練を実施している。尚、夜間も入居者6名に対しスタッフ2名常駐している。災害用携帯個人カードを避難経路に設置しており又隣家の駐車場を一時避難場所として使用させていただくことになっています。</p>	<p>夜間時に災害発生したとの想定で避難訓練をしている。この訓練による成果は、日中時にも適応できる。入居者6名は実際に全員屋外に退避している。消防署には必ず連絡を入れており、有事の際における対応にはしっかりしたものがある。防災対策としてはIH器具の使用、全室スプリンクラー設置、消火器2本を設置している。夜間2名の職員常駐は心強い。</p>	<p>地域防災活動に参加するなど防災意識は高い。今後、更にホームと近隣地区との協力体制の強化を促進していかれるよう望みたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格を把握してそれぞれに合わせて、できるだけ明るくプライバシーを損ねないよう、気を付けて声掛けをしている。	家族同然の日々の中でも入居者の人権やプライバシーの確保には十分な配慮をしている。入居者全員が女性であるという面でのしやすさもあるが、名前の呼び方や声掛けについては一人ひとりの個性に合わせるようにしている。	従来からの固定した支援方針に加え、職員が外部から得た対処法を組み入れるなどし、常に新しい支援方法の試みをさせていきたい。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中からも思いを希望を察し自己決定できるように支援しています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食中毒予防のため食事の時間は決めているが、以外は自由でマイペースに過ごせるようにしている。希望により個別の散歩に出掛けるなど臨機応変に対応している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は好みの物を着てもらい、季節感などアドバイスしている。訪問美容利用で希望により毛染めの支援。季節行事には和服を着てお化粧の支援などしている。		
40	15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は勿論、主食にも季節の物を取り入れて楽しく食事できるよう工夫している。行事食は器や盛り付けも楽しみの一つです。出来る方には下膳してもらっている。	長年の経験から得たホーム独自のバラエティーに富んだ料理は、栄養のバランスと味付けも美味しくできている。週2回の昼食はさくらクリニックのデイサービスに出向くなど日々の食事の中にも変化をつけている。毎日の3時のティータイムのおやつなども楽しみにされている。	テーブルを囲んで楽しい食事をされている。カフェやお好み焼き屋に出かけたりもしている。おやつにはもっとバリエーションを持たせてはどうか。これからも皆でいただく楽しい食事支援の継続をお願いしたい。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	声掛けによる水分補給を促し水分確保をしてもらっている。一人ひとりの状態に合わせた食事形態に変えています。体重の増減にも気を付けている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持が出来るよう毎食後の口腔ケアを行っている。義歯は毎夜に洗浄液につけて保管しています。自分で出来る方には自己で出来るような声掛け、支援をしています。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表の活用、排泄パターンの把握、声掛け、1人ひとりの力量に応じた支援をしている。	職員は入居者一人ひとりの排泄支援の対応の仕方を熟知している。基本的には排泄チェック表に従い、本人の意志を大切にしながら見守り支援を心掛けている。	足踏み、テレビ体操、膝でボールを挟むなどの運動をしている。一朝一夕に効果を得られるものではないので、継続して頂きたい。また、自立排泄促進の研修機会があれば新しい方法も習得でき、その面での模索も期待したい。
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯にもち麦や雑穀米を入れたり野菜など毎食食時はヨーグルトを取り入れ毎朝体操もし日常的に自然排便を促し取り組んでいる。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に週2回の入浴と夏季は間にシャワー浴を取り入れています。又1人ひとりの状態やタイミングに合わせて柔軟に支援しています。入浴剤や菖蒲湯、ゆず湯など季節に合わせての入浴支援を行っている。	週に2回の入浴と、夏季にはその間の日にシャワー浴もする時がある。入浴を誘う入居者には時間差をつけて誘うようにしている。洗身してから入浴し、流し湯をつかっているため浴槽は常に清潔である。	入浴は健康保全の為だけではなく季節感のあるゆず湯や菖蒲湯などのサービスもしている。日常的なものとしてシャンプーや入浴剤の容器などをデザイン的に華やかで楽しいものにしてみるなどの工夫を凝らせば、かなりの視覚的効果が得られるのではないだろうか。

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には温度計を設置して快適な眠りを提供している。日中の活動を通して、昼夜逆転しない生活リズムを作っている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが目的、副作用、用法用量を理解している。変更あった時には共有し注意を払っている。症状の悪化や改善により投薬の増減を医師と相談している。		
48	○役割、楽しみことの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力量に合わせて、出来る事やりたい事を支援している。洗濯物たたみ、カルタ取り、ビーチボールバレーは皆さん喜んで参加されている		
49 18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節によりお花見に行ったり、外食に行ったり、地域の交流会や行事に参加している。気候の良い時は日常的に近くの公園に散歩に出掛けている。市の医療証を利用してデイケアに通っている。また、ご家族との食事や買い物の外出支援をしている。	職員は入居者に外出への誘いをするようにしている。ホームの近くには手頃な公園があり、通常はよくここを利用している。定期的には週2回の昼食のためのデイケアへの外出もある。また、介護タクシーを利用してのお好み焼き屋への外食もある。	デイケアのない日でも外出可能なすべての日には、たとえ短時間でも近隣外出を考えてみられてはどうだろうか。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	被害妄想もあり金銭の所持は管理が困難である。希望があれば買い物に出かけ少額立替で自分で払ってもらう。しかし、戦後を体験した方は買い物への意欲の無い方が多いのも確かです。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	認知症になってからの入居のため友人関係はすでに途絶えている。希望があれば住所や電話番号が分かっている時には支援している。		
52 19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁かけやタペストリー、皆さんで作った季節作品などを飾ったり夏はグリーンカーテンと季節感を取り入れたいことを継続している。生け花は誤食される方がおられるため飾れなくなりました。各室に温湿度計設置し、心地よく過ごせるよう工夫している。調理の音や匂いもあり生活感満載です。	リビングは大きなガラス戸があり採光は充分である。ここで寛いでいる入居者どうしの適切な間隔はお互いに親睦を感じさせ、全員が家族と見紛うような雰囲気である。職員は皆、話好きであり、入居者は楽しく和んでおられた。リビングは全体に穏やかで不快さを与えるものはなく、共用空間としては申し分ない。	リビングから見える向かいの家の白色系の壁が時刻によってはやや明るすぎるようではあったが、植栽にさえぎられていた。できればもう少し常緑植物を増やされてみてはどうか。更にリビングの落ち着き度が増すものと思われる。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ダイニング、ソファ、居室で思い思いに過ごされています。		
54 20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人、ご家族と相談し仏壇や使い慣れた家具など思い思いの物を持ってきている。全室南向きで明るく、温湿度計設置して温度や湿度の管理で居心地よく過ごせる工夫をしている。	全居室は南向きで明るく、窓は2重窓で外気の影響を受けにくいようにしてある。毎日の掃除機による清掃、枕カバー、パジャマ、シーツもチェックシート表に従って取り換えられている。汚れた場合は即時交換する。ご本人の馴染みのものや好みの物も設置している。家族の要望も考慮し生活感を保つよう努力している。	入居者一人ひとりの生活上の特性を考慮したりすると、生活用品の設置方法に工夫も必要な場合もある。家族との積極的な相談も求められてはどうか。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力量に応じて見守りやセンサーにより動きを察知して手助けをしている。居室のシャッター開閉は見守りで本人にしてもらっている。最初は手が届かなかった人も届くようになっていく。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない